

絵の中の小さな旅

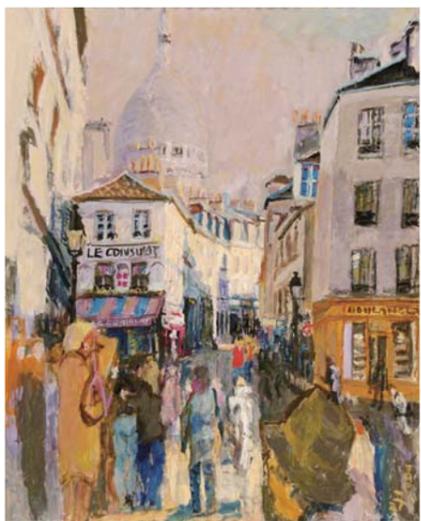
海外編

8月26日(土)～10月15日(日)
休館日/毎週月曜日(祝日の場合、火曜日が休館)



シュリー橋/宮地俊一郎

香美市立美術館では、絵の中の小さな旅・海外編を開催します。この展覧会は、収蔵作品の中から世界各地の風景などを描いた絵を選び、それを鑑賞しながら心の旅を楽しみたいものです。片木太郎が描くローテンブルク。石川寅治の『台湾風景』。イタリヤのベネチアを描いた平賀亀祐、二重作竜夫、宮田重雄。スペインを舞台にした真垣武勝の『セビリア』、『古代の水道』など、世界中の景色に出合うことができます。そして、多くの画家の心を捉えたパリの風景がたくさん描かれています。



晴れた朝のモンマルトル/上島一司

パリは芸術の都と言われているだけに、世界中の芸術家にとってあこがれの地。多くの日本人画家がパリを訪れており、高知の画家も例外ではありませんでした。土佐山田町出身の上島一司をはじめ、福富栄、山本茂一郎、山脇信徳、宮地俊一郎など、多くの画家がパリを目指した時代がありました。それぞれの視点で描かれたパリの風景を見比べ、その違いを楽しんでみてはいかがでしょうか。また、これに合わせて香美市内の小学4年生の作品も展示をします。子どもたちのみずみずしい感性を、ぜひご覧ください。(館長・都築房子)

香美市文芸

風の流氷

◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

ブラタモリ老いて学べる歴史かな
岡本 初美
早朝より蝉声高く歌唱せり
三木 牧子
蛍飛ぶ川もなくなり若き日より
有澤 春江
除草剤入れて田植のひとくぎり
五百蔵利美
野の花を一輪活けて梅雨に入る
楮佐古きよ
平凡の日々が好きなり胡瓜もみ
上池 児未
石段に弾ける雨や青葉傘
中村 紫乃
透析の夢に妙葉枇杷の種
福留ともり
西瓜割目隠しの眼もつぶり
三谷 誠郎
炎天に芋苗挿して映の空
山崎 寿美
水張るや棚田に星の降りてくる
森本 純喜
鬼百合の頭を垂れて迎へけり
森本 幸美
梅雨晴間草刈りの音響きけり
山崎 貴子

◆美良布俳句会◆

掘るときのこと思わずに諸植える
岡本かほる
行列の児らの黄帽子風薫る
明石ゆきゑ
植ゑし田に啄む鷺の忍び足
北村 幸子
梅雨茸あつといふ間の油断かな
北村 里子
二人居の座して無口や五月雨
小野川順子
金目鯛焼ける香をかぐ今朝の夏
前田 芳子
カーペット替えて我が家も夏仕度
中内ゆかり
屹度眼を慎太郎像極暑かな
竹内 ろ草

◆かがみ野俳句会◆

青田風曳き入れ弾む鏡の音
ふる里は眼裏にあり花南天
軽やかにラジオ体操柿若葉
入梅や畦に休める鎌一つ
雲透きて躍り口より梅雨の蝶
一句吊る明珍風鈴露地深く
万緑や採用内定まづ一つ

◆かほく俳句会◆

三尺寝夢見る幅もなかりけり
初鯉葉しみ一つ土佐路へと
青田風歌声広場あとにせり
米櫃に米満ちてあり袋かけ
空梅雨や瓶を振り切る水の音
夏帽子振りて送りぬ特攻兵
百姓の真似事をして甘諸植うる
葉桜や今日より葉減りにけり
夏折袴本日一粒万倍日
合歓咲くや余生と云ふは淡きもの
笑ふこと忘れたる顔汗拭ふ
石に還る御灯明台青葉蘭
この平和いつまで続くシャボン玉
蝦蟇鳴きはじむ月出し杜に
青梅雨や磨ききつたる青磁あり
束にせし不要の書籍梅雨湿り
遠き日の姑を偲びて鼓草
お日様の様な児とゐる蛙の子
水張れば潜む殻象浮かび出る
詩の本の言葉輝く五月かな

古川 信子
利根 弘子
森本 健代
山崎 鈴子
中澤 美晴
坂元 道子
佐竹 洋子

乾 真紀子
奥宮かなえ
堅山 高子
久保内鏡子
黒岩千英子
小松 隆之
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
前田 智
間崎 和代
宮崎ただし
宗石 愛喜
森本 之子
山崎かずみ
山中 晶子
山中 瑞輝
山中 明石
山中 花野

◆土佐山田町俳句会◆

警蹕の声六月の雨の杜
滴りや町の天下の龍河洞
蛍飛ぶ橋の向うに母がいる
あじさいの見事日記の一行目
新緑の車窓に青き吉野川
升酒の木の香のふつと釣忍
桶を落ちる水音ゆたか早苗月
蛍飛ぶ静かに闇を匂はせて
明六つの蛇口のしずく梅雨に入る
耳許で囁く神話蓮の花
水羊羹の水色に透け喪の家族
紫陽花の色の中なる水子仏

◆今月のキラリ◆

石段に弾ける雨や青葉傘
石段は、山頂の氏神へと続く参道であろうか。季節は梅雨。折からの雨が石段を叩く。作者は石段に繁る青葉を傘だと感じたのであろう。

明石 菲生
甲藤 卓雄
森田 菊恵
前田 小夜
笹岡 英世
西内 道彦
大石 邦男
橋本 昭和
前田美智子
安丸 槇子
榎谷 雅道
田村 一翠

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

投稿先 総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

吉井勇記念館だより

星祭 旧七夕まつり

吉井勇が初めて猪野々を訪れたのは旧暦の七夕。当時、勇が見た昔ながらの七夕飾りを、猪野々活性化委員会・猪野々老人クラブのご協力で再現します。市内の小中学生が書いた短冊も飾ります。風情ある景色を、ぜひご覧ください。
【日時】8月6日(日) 8月12日(土)

星祭 地域イベント 開催

星祭最終日の8月12日(土)に、地域の方による『地元再発見!』をテーマにしたイベントを開催します。露店での軽食販売や松明点灯など、猪野々地域ならではの企画をぜひお楽しみください。
また、それに合わせて、記念館の夜間開館を行います(20時まで入館可)。
【日時】8月12日(土) 17時～20時
・露店(猪野々のうまいもん販売・スーパースポールすくい・ヨーヨーすくい)
※要予約
【場所】猪野々集会所前広場(吉井勇記念館西隣)
【送迎バス】
香美市役所本庁舎より、JRバス美良布駅経由。行き 16時30分発(美良布駅16時50分) 帰り 20時発

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220